

1 学校の沿革

栃木県小山市立下生井小学校					
学 校 所在地	栃木県小山市大字下生井1546番地	電 話 番 号	局番 0280 55-0372	郵 便 番 号	329-0223
沿 革	明治 6.5 創立 扶桑館と称する。 19. 浩然学舎、白鳥学校合併寒川郡第六扶桑館となる 20. 下都賀郡第7番学区下生井尋常小学校となる。 22.12 下都賀郡第5番学区下生井尋常小学校となる。 35.4 生井村立下生井尋常小学校となる。 39.9 下生井農業補習学校を付設開校する。 41.4 義務教育年限延長第5学年を置く。 42.4 義務教育年限延長第6学年を置く。 45.4 村費節減に伴い農業補習学校を休校にする。 大正 4.7 改築校を下生井渡辺良助氏屋敷跡に移す。 (純2階建216坪7合5勺) 教員住宅も建設する。 6.4 高等科併置下生井尋常高等小学校となる。 12.4 教室狭隘のため仮校舎増築する。 昭和16.4 生井村立下生井国民学校となる。 16.7 大洪水により仮校舎北側が破壊流失する。 22.4 生井村立下生井小学校となる。 22.9 大洪水のため本館大破、仮校舎流失する。 30.4 間々田町立下生井小学校となる。 31.5 校舎新築落成する。工費総額 8,560,733円 38.4 小山市立下生井小学校となる。 39.2 公仕室、給食室、便所移築、完全給食となる 41.12 体育館竣工する 43.11 校旗樹立する 47.7 プール竣工する 48.3 校地拡張工事 48.7 プール更衣室完成 49.8 放送室完成 49.11 宿直無人化,創立100周年記念式典を挙行する。 50.1 学校給食優良校として県教委より表彰を受ける 53.3 体育館床沈下による補修完成 57.7 プール(水槽)交換工事 59.10 小山市教育委員会指定研究実践公開発表(国語) 60.7 新校舎建設地鎮祭挙行 61.3 新校舎完成引渡・引越 61.11 新校舎落成記念式典				
	平成 4.1 交通安全優秀校表彰(5年連続) 8. ~ 10. 学童ボランティア活動普及事業協力校 8. あんずの里ふれあい活動始まる 9. 高齢者福祉教育地域交流推進校 10. 杏の里ふれあい活動推進(3年目) 11. アグリメイトクラブ活動推進事業協力校 12. 総合的な学習と関連させた杏の里ふれあい活動を推進 13.11 教育委員会と連携してミンパク宿泊体験学習を実施 14. 杏の里ふれあい活動推進(7年目) 15. WindowsXP・校内LAN完備、杏の里ふれあい活動(8年目) 16. 創立130周年記念秋季大運動会・かわせみ祭の実施 17. 杏の里ふれあい活動推進(10年目)、英語科研究推進校(英語特区) 19. とちぎ地産地消・大賞コンクールにて奨励賞を受賞する。 20. 緊急通報システム導入。教職員校務兼用ノートPC13台導入。 21. 「あんずっ子きらきらタイム」放課後活動開始。 22. 小山市教育委員会より小中一貫教育推進研究モデル校委嘱 小規模特認校開始、下野教育美術展・団体賞受賞 23. 大プール全面塗装工事、市学校体験農園写真コンクール優良賞受賞 24. 市学校体験農園写真コンクール最優秀賞受賞、太陽光発電設備設置 25. 県自然保護奨励賞受賞、空調設備設置工事完成 26. 環境省野生生物保護功労者表彰「環境大臣賞」受賞 27. とちぎ元気キッズ学校奨励賞受賞 28. とちぎ元気キッズ学校奨励賞受賞連続受賞 29. 杏の里実行委員会さん小山市教育功労賞受賞(委員会創立25周年) 30. 野村校医様(5年連続)、碓井様(3回目)より図書代の寄付 令和元. 日教弘栃木支部指定研究学校、受水槽ポンプ交換、プレイルーム床一部張替 2. 小山市田んぼの学校指定校、Wi-Fi工事、一人一台タブレット整備完了 県体カづくり奨励賞、県小学校教育研究会賞 4.3 令和3年度優良少年消防クラブ表彰消防長官賞受賞 5.3 県体カづくり奨励賞受賞 5.6 創立150周年記念運動会の実施 5.11 創立150周年記念式典開催 6.3 県体カづくり奨励賞受賞 6.3 プール(オーバーフロー)一部改修工事完了 6.3 消防庁より「優良少年消防クラブ」表彰 6.8 体育館エアコン設置 6.12 日韓環境教育交流会実施 7.3 県体カづくり奨励賞受賞				

2 地域の実態

(1) 自然環境について

小山市の南西部に位置し、東に思川、西に巴波川に挟まれた、古くから洪水被害が多かった地域である。学校の近くの「旧思川」や与良川では、水辺の植物が茂り、淡水魚や水生昆虫なども多く見られる自然豊かな環境である。

平成15年遊水地が見渡せる堤防上に「生井さくら堤」が、旧思川には「生井ふるさと公園」が整備され、自然と親しむことのできる地域となっている。

さらに、野鳥の観察や絶滅危惧種の植物観察、ヨシ焼きなどで親しんできた渡良瀬遊水地が、平成24年(2012年)、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地登録されたことにより、第2調整池(学習フィールド3)等が整備され、ますます自然学習しやすい環境が整ってきている。

(2) 地域の歴史

明治維新までは小山庄生井郷(生良、上生井、下生井、白鳥)と称し、領主は変わったが明治5年までは古河領であった。古来より米麦を中心とした農業地域でだった。明治以降、養蚕が盛んであったが、思川の河川改修が完成し鉄道が開通するに及んで、河川交通のさびれとともに、養蚕も下火になった。河川改修以前は、水害をたびたび受けたが、完成後は水害も少なくなった。

野木、古河方面へは渡良瀬遊水地の中を通る必要があったが、平成8年松原大橋の開通により、野木駅まで一直線となり、車で5分程度という恵まれた立地条件となっている。

(3) 地域の実態

人々の連帯感が強く、また温かく児童たちの成長を見守ってくださる雰囲気がある。よりよい児童たちの成長と地域の連帯感強化をねらって、令和6年度は、地域の有志を中心に「あんずっ子サマーフェスタ」を夏休みに復活開催し、地域の人口は少ないが大変活気があるイベントとなった。

また、県との交渉を重ねて与良川の土手に127本の杏の木を植え、地域の憩いの場「杏の里」を協力して作る等、地域の結束力や郷土を愛する気持ちは強い。

さらに、平成18年、明治大正の養蚕が盛んだった頃歌われていた桑摘み唄を、地域のお年寄りから聞き取って「生井桑摘み唄保存会」を立ち上げる、平成28年ヨシを使ったヨシ船を第2調整池に浮かべヨシをアピールするなど、地域の村おこし意識は強い。

また、小山市でただ1軒のヨシズ農家池貝さん、ふゆみず田んぼ米の生産者、低農薬ブランド米「生井っ子」の生産者、高級魚ホンモロコの生産者などが故郷を大切にしながらよりよい農業へと前進する姿は、児童の目にも力強く映っている。

白鳥地域の140年続く「日の出まつり」は、現在も古式の祭礼方法にのっとって伝承している。伝統を守っていかうとする気運も強い。

渡良瀬遊水地には、平成26年頃からコウノトリが飛来するようになり、2020年には、産卵および抱卵が確認され、その後2羽の雛が誕生した。コウノトリの野生復帰のための環境保全に努めている。また、令和2年3月には、渡良瀬遊水地の情報発信、エコアグリツアーの推進、地域活性化を図るため、渡良瀬遊水地コウノトリ交流館が完成した。

(4) 学校・児童の実態

明るく素直な児童が多く、清掃や奉仕活動にも熱心に取り組んでいる。

本校では「一人一人が力を出そう みんなが主役だ 輝け下小」のスローガンのもと、本校の特色ある教育『杏の里ふれあい活動』を地域の方々の協力を得て実施し、豊かな人間性を育ててきた。また、令和2年度より、小山市教育委員会より『田んぼの学校』の指定を受け、その活動をスタートさせた。

本年度は、小規模特認校制度を利用して市内他地区から入学および転学する児童が増え、31人中16人が本制度を利用して通学している。(令和7年3月現在)